

3 かけがえのない森林

森林のようすとはたらき

森は多くの生き物のすみかとなっただけでなく、わたしたちの生活に欠かせない水や食べ物などをあててくれます。また、二酸化炭素を吸収して酸素をつくったり、雨水をためて水蒸気にして大気中にかえしたり、地球の気候を安定させています。森は地球にとってかけがえのない大切な役割をはたしています。

三島市の森林のようす

日本の国土はおよそ67%が森林です。そのうちの約57%が自然にできた森林(自然林)で、残りの約43%は人が植えたスギやヒノキなどの人工林です。

三島市では森林のほとんどが箱根西麓に広がり、面積は2,320ヘクタールをめています。天然林と人工林の割合は、天然林が約31%、人工林が約69%となっています。

森林のはたらき

生活環境をよくする

家を風害から守ったり、騒音をへらしたり、また、人の気持ちを落ち着かせるなど、生活環境をよくする役割をもっています。

ゆたかな海をつくる

森から流れ出る養分をふくんだ水は海に流れてプランクトンを育て、海をゆたかにして、魚や貝を育てる役割をもっています。

地球を守る

空気をきれいにしたり、二酸化炭素を吸収したりして地球温暖化をふせぐなど、地球環境を守る役割をもっています。

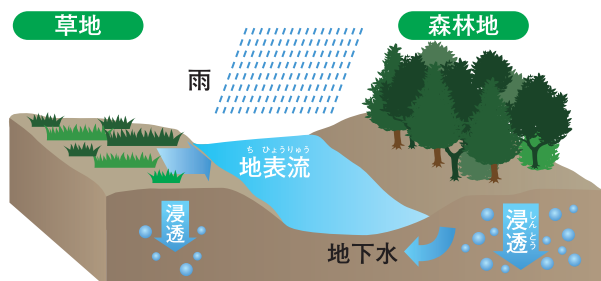
地下水を育てる

雨水はそのまま川や海まで流れず、地中にしみこんでたくわえられます。また、地中を流れることで水がきれいになり、わき水となって、私たちの生活に必要な水を少しずつ養育しています。

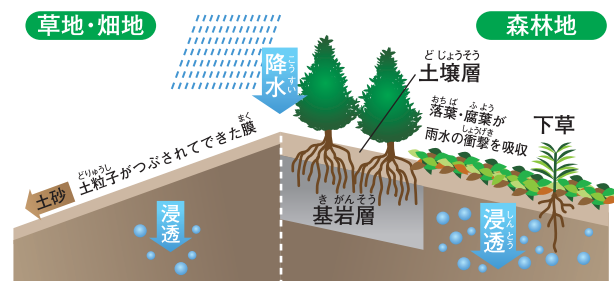
土砂の流出をふせぐ

木の根がしっかりとほること、土砂くずれや土の流出、なだれなどをふせぐ役割をもっています。

地下水を育てるはたらき



土砂の流出をふせぐはたらき



森林を守る取り組み

自然の森は、人の手が入るとこわれやすいので、大切に保護していかなければなりません。人が植えた人工林は、手入れをしないとあれてしまい、森のはたらきが十分にいかされません。きちんと手入れをしてくれる人をふやし、健康な森を育てることが必要です。

木を植える

木材として使うなどのために木を切ったあとには苗木を植え(植林)、再び森ができるようにすることが大切です。

森からの水がゆたかな海を作るため、漁師や養殖業者をする人たちが、山に木を植える活動を行っている所もあります。



間伐をする

植林した森は、木が大きくなるとえだや葉でおおわれ、地面に太陽の光がとどかなくなり、水をたくわえる草や低い木が育ちません。太陽の光が入らないところは何本かの木を切り、木の間をあけること(間伐)が必要です。

三島市では、森を守るために間伐などを行う森林ボランティア団体も活やくしています。



針葉樹から広葉樹へ

三島の森林の多くは針葉樹(ヒノキ)の人工林です。しかし、台風などによる土砂崩れをふせいだり、地下水を貯める機能は広葉樹の方が高いとされています。また、動物や植物もヒノキだけの人工林より広葉樹林の方を好みます。

そこで三島市では、ヒノキを間伐して広葉樹を植える活動を進めています。

針葉樹と広葉樹の特徴

針葉樹 (ヒノキ、スギ等)		広葉樹 (ケヤキ、コナラ等)
まっすぐのびる	幹・枝	横に広く枝をのばす
細くとがっている	葉っぱ	広くひらべったい
やわらかい 軽い	材質	かたい 重い
早い	成長	おそい
暗い感じ	森の様子	明るい

